

Press Release

2026 年 4 月 13 日

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086
神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.com/jp

EL26-09

その“もの忘れ”、アルツハイマー病かも 日本イーライリリー、アルツハイマー病に関する啓発活動を全国展開 風吹ジュンさんをアンバサダーに起用したテレビ CM を 4 月 24 日に放映開始 全国 50 箇所で開催イベント「年のせいじゃない“もの忘れ”展」開催

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:シモーネ・トムセン、以下、「日本イーライリリー」)は、本日、俳優の風吹 ジュン さんをアンバサダーに起用し、4 月 24 日から放映するテレビ CM や啓発イベントなど、今後全国展開をするアルツハイマー病に関する啓発活動について発表いたしました。



アルツハイマー病は、認知症の主な原因疾患であり、当事者数が最も多い認知症の種類です¹。65 歳以上の認知症の当事者は、2022 年に 443.2 万人、2030 年には 500 万人を超えると推計され²、その 67.6%をアルツハイマー型認知症が占めています¹。アルツハイマー病の当事者には、MCI(軽度認知障害)や軽度認知症の段階から、主な症状の一つとして“もの忘れ”がみられることがあります³。アルツハイマー病は早期に発見し対策することで、進行をゆるやかにできる可能性があるため、早めに正確な検査・診断を受けることが大切です。そのためにも“もの忘れ”を見逃さないことが重要です。

日本イーライリリーが実施した、受診歴のある MCI または軽度認知症(アルツハイマー型/アルツハイマー病)の当事者*(以下、「当事者」)/ご家族、受診歴のないもの忘れの自覚のある方(以下、「未受診の方」)/ご家族(合計 1,000 名)を対象とした意識調査では、未受診の方/ご家族の半数以上が、アルツハイマー病が“もの忘れ”の原因である可能性を知っていました。一方、“もの忘れ”を年齢のせいにしたたり、日常生活に支障がないと考えたりして、専門医に相談するといった具体的な行動を起こしていないこともわかりました。しかし、当事者/ご家族の約半数が、“もの忘れ”の頻度が増えたことで医療機関を受診しており、“もの忘れ”はアルツハイマー病を発見する重要な要素といえます。また、受診の有無に関わらず、アルツハイマー病の原因の 1 つである「アミロイド β」やその治療薬である「抗アミロイド β 抗体薬」に対する認知度が低いことも示されました(詳細な結果は[参考資料](#)をご参照ください)。

そこで今回、アルツハイマー病に関する啓発活動を通して、アルツハイマー病の重要な症状の一つである“もの忘れ”に対する理解促進を目指してまいります。第 1 弾として、風吹 ジュン さんをアンバサダーに起用したテレビ CM「花と髪」篇、「花」篇、「髪」篇を、4 月 24 日より全国にて放映開始いたします。さらに 4 月 25 日より、全国 50 箇所(計 59 日間)にて、啓発イベント「年のせいじゃない“もの忘れ”展」の開催を行ってまいります。

今回の啓発活動に際し、テレビ CM や疾患啓発サイト「もの忘れ・アルツハイマー病ナビ」などを監修いただきました、東京慈恵会医科大学 名誉教授 繁田 雅弘 先生は、以下のように述べています。「アルツハイマー病は、認知症の原因疾患として当事者の数が最も多い疾患です。その原因となるのがアミロイドβというタンパク質で、症状が出る10年～20年以上前から脳にたまり始めるといわれています。脳にアミロイドβが異常にたまり、脳の神経細胞が障害され、その結果、もの忘れが増えるなど、認知機能や日常生活に支障をきたします。アルツハイマー病は、早く気づいて対策を始めることで、進行をゆるやかにしたり、今できることを長く続けられたりする可能性があります。そのためには、できるだけ早く、正確な診断を受けることがとても大切です。症状が軽いうちは気づきにくく、年齢のせいかなと見過ごされることも少なくありません。ご本人やご家族が、いつもと何か違うかもと感じたときこそ、早めに専門医に相談してみることをおすすめします」

また、今回アンバサダーを務めていただきます、風吹 ジュン さんから以下のコメントをいただきました。「今回、アンバサダーに就任し、改めてアルツハイマー病について考える機会をいただきました。アルツハイマー病と聞くと、身の回りのことができなくなったり、徘徊をしたりといったイメージをお持ちの方もいらっしゃると思いますが、そのはじまりは誰にでも身に覚えのあるようなちょっとした“もの忘れ”だということを知りました。私も年齢とともに日常の中でのもの忘れを感じるが増えてきました。しかし、そのようなもの忘れがアルツハイマー病によるもの忘れなのか、自分自身で判断することは難しいと感じます。ですから、もの忘れが続く、今までと何か違うといった違和感があれば、早期に専門の医師に相談していただくことが大切だと思います。アルツハイマー病は決して他人事ではなく、誰もが罹患する可能性のある疾患です。アンバサダーとして、多くの方が早期に気づききっかけとして“そのもの忘れ、アルツハイマー病かも”と伝えていきたいと思っています」

日本イーライリリーは、今後も啓発活動を通じてアルツハイマー病の正しい理解を広げるとともに、早期に気づき、必要な方が受診する重要性を伝えてまいります。

以上

日本イーライリリーの実施するアルツハイマー病に関する主な啓発活動について

①テレビCM放映

同じ花を繰り返し買ってきってしまう、美容院に行くため出かけたはずなのにそれを忘れて帰ってきってしまう。当事者である主人公(俳優 風吹 ジュンさん)が、日常に起こる“もの忘れ”を娘に指摘されて戸惑う場面を通じ、当事者と家族が感じる小さな違和感を表現しました。CM後半では、風吹 ジュンさんがアンバサダー役となり、脳内に蓄積するアミロイドβがアルツハイマー病の原因の一つであることの説明をし、専門医への受診を促します。

内 容:「花と髪」篇(30秒)、「花」篇(15秒)、「髪」篇(15秒)

放映開始:2026年4月24日(金)

放映地域:全国

URL: https://www.youtube.com/watch?v=ZY48X8k6Z_g (公開予定日:4月24日)



②啓発イベント「年のせいじゃない“もの忘れ”展」開催

アルツハイマー病による“もの忘れ”を散りばめた部屋を表現する「アルツハイム921号室」の展示を行います(大規模会場のみ)。実際の部屋を見ながら、アルツハイマー病について理解を深めていただきます。会場ではトークセッションも開催しますので、各地域の専門医による解説をお聴きいただけます。また、会場には、参加者がアルツハイマー病の多様な症状を「脳からのサイン」として理解するための「チェック冊子」もご用意します(診断を目的としておりません)。

開催場所:全国のショッピングモール、ドコモショップ、計50箇所

開催時期:2026年4月25日(土)～6月7日(日)、計59日間



③啓発サイト「もの忘れ・アルツハイマー病ナビ」リニューアル

日本イーライリリーでは、アルツハイマー病に対する正しい知識の提供、理解促進を目指した啓発サイトを展開しています。今回の啓発活動に合わせリニューアルをいたします。

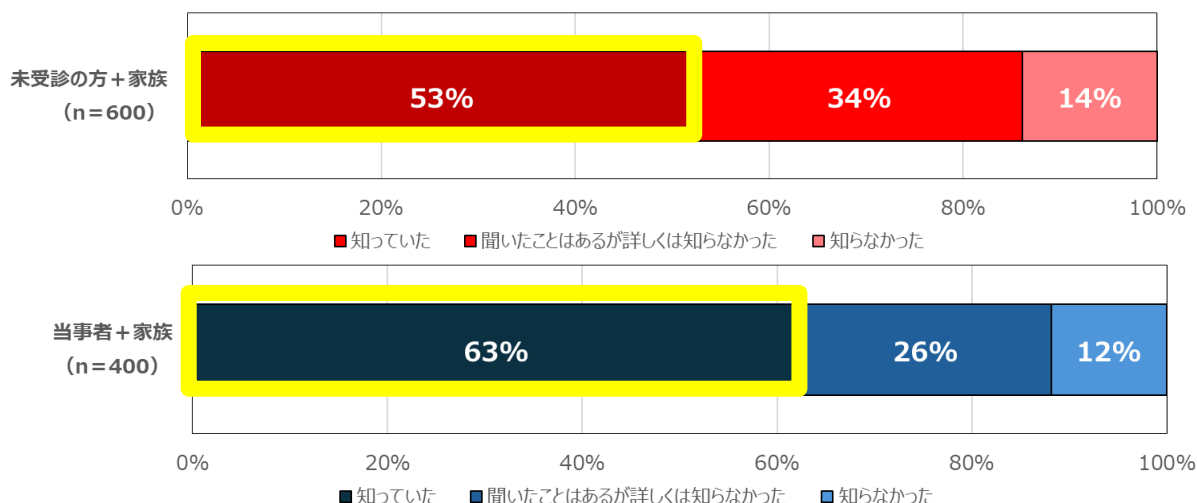
URL: <https://disease.jp.lilly.com/alzheimers> (公開予定日:4月23日)



アルツハイマー病に関する意識調査結果について（詳細な結果は[参考資料](#)をご参照ください）

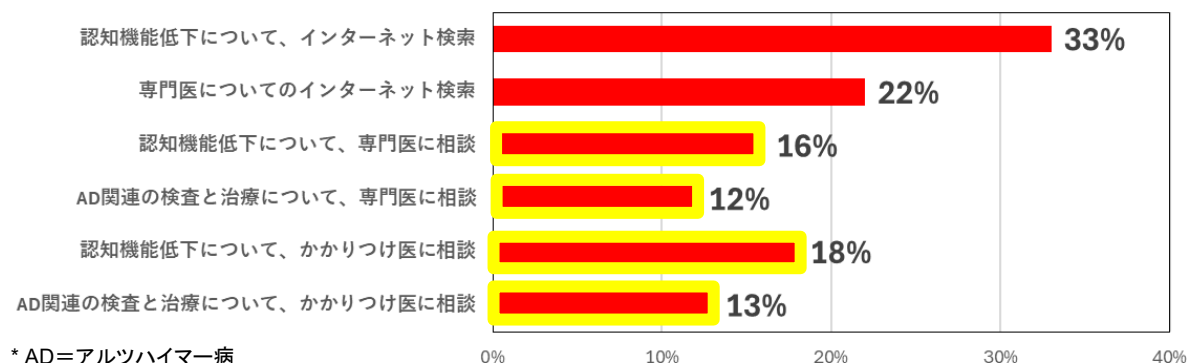
未受診の方／ご家族の53%は「もの忘れ」の原因としてアルツハイマー病の可能性があること」を知っていました。

“もの忘れ”の原因としてアルツハイマー病の可能性があることに対する認知度 n=1,000(全体)



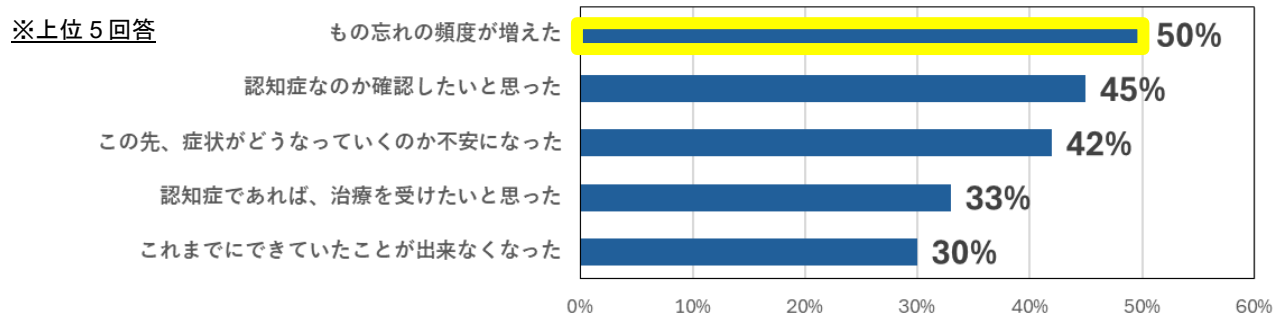
未受診の方／ご家族に「記憶力(もの忘れ)や思考力(理解・判断力)」の問題に関して、過去3か月以内に行った、今後3か月以内に行おうと思うことを質問したところ、「医師に相談」と回答が2割未満でした。“もの忘れ”の原因がアルツハイマー病かもしれないと認識していても、未受診の方／ご家族は医師への相談に消極的なようです。

「記憶力(もの忘れ)や思考力(理解・判断力)」の問題に関して、過去3か月以内に行った、今後3か月以内に行おうと思うこと n=600(未受診の方／ご家族)



当事者／ご家族に「記憶力(もの忘れ)や思考力(理解・判断力)の変化(低下)」について医療機関を受診したきっかけを質問したところ、「もの忘れの頻度が増えた」が最も多く、50%が回答しました。“もの忘れ”はアルツハイマー病を発見する重要な要素といえます。

「記憶力(もの忘れ)や思考力(理解・判断力)の変化(低下)」について医療機関を受診したきっかけ n=400(当事者／ご家族)



【調査概要】

調査主体 : 日本イーライリリー株式会社

実 査 : 株式会社メディリード

調査目的 : アルツハイマー病に関する意識調査のため

調査手法 : インターネット調査

調査地域 : 全国(北海道・愛知・大阪の3道府県500名、それ以外の44都府県500名)

実査期間 : 2026年1月16日(金)～27日(火)

調査対象 : ①55歳以上85歳未満のMCI／軽度認知症(AD)当事者*

※中等症以上の診断ありの方は除く

②上記①の条件に合致する方と関わりのある20歳以上85歳未満の家族

(20代と80代は少数と想定するが除外しない)

③55歳以上85歳未満の記憶力・思考力の低下を自覚している方(未受診の方)

※中等症以上の自覚ありの方は除く

④上記③の条件に合致する方と関わりのある20歳以上85歳未満の家族

(20代と80代は少数と想定するが除外しない)

サンプル数 : 1,000名

(当事者100名＋家族300名／計400名、未受診の方300名＋家族300名／計600名)

*記憶力や思考力の低下を感じていると自己申告をした当事者／家族(受診あり)

※本調査における当事者本人および当事者家族は自己申告であり、回答は回答者の認識に基づくものです。

また、サンプル地域に一定の偏りがあるため、結果の解釈にあたってはご注意ください。

※本調査結果において対象者①と②を「当事者＋家族」、対象者③と④を「未受診の方＋家族」と示します。

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国に本社をおくグローバル製薬企業イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人として、最先端の科学技術を基盤とした革新的医薬品の研究開発および供給に、50年以上にわたり継続的に取り組んでいます。ダイアベティス(糖尿病)、肥満症、がん、アルツハイマー病を含む中枢神経系疾患、自己免疫疾患など幅広い領域において医療の可能性を切り拓き、誰もが必要な医療を安心して受けられる社会づくりや、人々の健康で豊かな人生の実現に貢献してまいります。

詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。<https://www.lilly.com/jp>

1.厚生労働省「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害対応」(平成25年6月報告)

2.厚生労働省「令和6年版高齢社会白書」p.31」

3. Gueorguieva I, et al.: Alzheimers Dement. 2023; 19: 2253-2264